

## 「岐路に立つ NATO—米欧同盟の国際政治—」

2009年9月24日

### 【研究概要】

NATO（北大西洋条約機構）は、冷戦終結以降、当初の集団防衛機構の役割を超えて大きな変容を遂げた。特に近年では、アフガニスタンでの活動などに見られるように、欧州地域のみならず世界の安全保障に大きな役割を果たしている。2009年に創設60周年を迎えたNATOはいま、新しい戦略概念（strategic concept）の策定作業のさなかにあり、NATOは現在もなお変容の過程にある。そして今後のNATOのあり方をめぐっては、28カ国に増えた加盟国の中でも様々な議論がある。

最近の国際安全保障環境に鑑みて、日本とNATOが潜在的に協力しうる分野は今後増えていくものと思われるが、これまで日本にとってNATOは必ずしも身近な存在ではなく、NATOの実際の様子は日本ではあまり詳しく伝えられて来なかったように思われる。国内世論への対応に苦慮しながら犠牲を払って作戦に参加している加盟各国の努力や、NATOが進もうとしている将来像とそれを巡る加盟国間の意見の相違など、現在のNATOの努力やNATOが内外に抱える課題について理解を深めることは、日本とNATOとの関係を考える際にも極めて重要なことである。

このような問題意識の下に、本研究会は、NATOの任務の変化や、いくつかの主要加盟国のNATO政策の動向、そしてNATOとユーラシア地域との関わりなど、NATOの現状と展望について理解と分析を深め、日本におけるNATOのより深い理解を促すことを目的に発足した。

### 【これまでの成果】

本研究会は、2008年4月に発足した。2008年度は、12回の研究会を実施し、各回の研究会では、委員が担当分野についての報告を行い、それについての議論を行ってきた。また2008年11月に委員の一部がブリュッセルのNATO本部に赴き、NATO関係者等と意見交換を行った。2008年度末に中間報告となる報告書をまとめた。2009年度も、前年度の研究をより深めるべく研究会を行っている。2009年度末に報告書を取りまとめるとともに、ひいては出版という形で最終的な成果を広く発信したいと考えている。

【研究会メンバー】

主査：

内藤 昌平 日本国際問題研究所客員研究員

委員：

岩間 陽子 政策研究大学院大学教授

河東 哲夫 東京財団研究員・早稲田大学客員教授

鶴岡 路人 防衛研究所教官

広瀬 佳一 防衛大学校教授

宮原 信孝 久留米大学教授・東京財団研究員

吉崎 知典 防衛研究所第5研究室長

渡部 恒雄 東京財団研究員

委員兼幹事：

小窪 千早 日本国際問題研究所研究員